

山 岳 遭 難 発 生 状 況

(令和7年1月1日～令和7年7月13日)
地域部 山岳安全対策課

1 山岳遭難発生状況（暫定値）（令和6年数値は1月1日からの同期間数値）

区 分	発生件数	死 者	行方不明	負傷者	無事救出	遭難者計
令 和 7 年	142	27	4	68	68	167
令 和 6 年	116	24	0	49	63	136
前 年 同 期 比	26	3	4	19	5	31

2 山域別発生状況

区 分		件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
北 ア	槍穂高	18	12.7%	5	0	9	6	20
	後立山	32	22.5%	5	1	15	23	44
	その他	27	19.0%	0	0	19	14	33
計		77	54.2%	10	1	43	43	97
中央アルプス		10	7.0%	4	1	3	3	11
南アルプス		2	1.4%	0	1	1	0	2
八ヶ岳連峰		18	12.7%	3	0	11	5	19
その他の山岳		35	24.6%	10	1	10	17	38
計		142		27	4	68	68	167

3 態様別発生状況

区 分	件 数	件数比率	死 者	行方不明	負 傷 者	無事救出	遭難者計
転・滑落	47	33.1%	15	0	34	0	49
転 倒	27	19.0%	1	0	26	0	27
病 気	8	5.6%	3	0	0	5	8
道 迷 い	21	14.8%	0	0	0	36	36
落 石	4	2.8%	0	0	4	0	4
雪 崩	2	1.4%	1	0	1	1	3
落 雷	0	0.0%	0	0	0	0	0
疲労凍死傷	7	4.9%	0	0	0	8	8
不明・他	26	18.3%	7	4	3	18	32
計	142		27	4	68	68	167

4 男女別・年齢別比率

区 分	男 性					(人) 比率	女 性					(人) 比率	男女計	
	死者	不明	負傷	無事	計		死者	不明	負傷	無事	計		人数	比率
19歳以下	0	0	0	3	3	28 24.3%	0	0	0	0	0	13 25.0%	3	41 24.6%
20代	1	0	2	10	13		0	0	1	4	5		18	
30代	3	1	3	5	12		0	0	3	5	8		20	
40代	4	1	8	5	18	46 40.0%	1	0	8	3	12	24 46.2%	30	70 41.9%
50代	6	0	10	12	28	41 35.7%	0	0	9	3	12	15 28.8%	40	56 33.5%
60代	5	1	8	9	23		0	0	9	1	10		33	
70以上	7	1	4	6	18		0	0	3	2	5		23	
計	26	4	35	50	115		1	0	33	18	52		167	
比 率	68.9%						31.1%							

(※ 比率の計は、小数点の調整上、一致しない場合あり。)

先週の発生（7/7～7/13）

日付	場所	性別	年齢	死傷別	態様	概要
7月8日	北アルプス 燕岳	女	60	負傷	転倒	単独で燕岳から中房温泉登山口に向けて、合戦尾根を下山中、バランスを崩して転倒、負傷
7月9日	北アルプス 赤岩岳	女	45	無事救出	道迷い	4人パーティで燕岳から大天井岳を経由し、槍ヶ岳に向けて表銀座を縦走中、道に迷い、行動不能
		女	32	無事救出		
		女	34	無事救出		
		女	32	無事救出		
7月12日	ハヶ岳連峰 赤岳	女	35	負傷	転倒	4人パーティで赤岳から地蔵尾根を下山中、転倒、負傷
7月13日	北アルプス 白馬鍵ヶ岳	女	44	負傷	滑落	2人パーティで白馬鍵ヶ岳から猿倉へ向けて下山中、雪渓で足を滑らせ滑落し、負傷
7月13日	北アルプス 白馬鍵ヶ岳	男	44	無事救出	その他	上記遭難者の同行者。技量不足により行動不能
7月13日	北アルプス 白馬岳	女	43	負傷	落石	7人パーティで白馬大雪渓を登山中、落石により負傷
7月13日	北アルプス 白馬岳	女	51	負傷	落石	単独で白馬大雪渓を登山中、落石により負傷
7月13日	北アルプス 唐松岳	男	74	無事救出	発病	2人パーティで唐松岳に向けて八方尾根を登山中、発病により、行動不能

山岳安全対策課からのアドバイス

先週県内では、**8件**の山岳遭難が発生し、うち**7件**が北アルプスでの発生でした。

白馬大雪渓では先々週に続き、落石による遭難が**2件**発生しました。雪渓上では、音を立てることなく落石が転がってくるため、常に上部を気にしながら登山する必要があります。また、落石が発生した際は、「**ラーク!!**」と叫んで周囲の登山者へ落石の発生を知らせてください。

夏山シーズンが始まり、多くのみなさんが登山を楽しんでいるかと思いますが、山岳遭難の発生が後を絶ちません。遭難の多くは、疲労が溜まりやすい下山中に発生し、転倒・滑落の多くは、梯子や鎖が設置されている危険箇所よりも比較的危険性の少ない場所で発生しています。危険性が明らかな場所では、自然と緊張感が増して、慎重な行動を心掛ける一方、一見すると危険性が見えない登山道では、つい油断をしてしまったり、厳しい暑さによる疲労や脱水により、注意力が散漫になっていることなどが間接的な要因として挙げられます。

山頂はあくまで通過点であり、無事に下山することがゴールです。下山中は気持ちを引き締め、漫然と行動することなく、自身の体力にゆとりを持った計画をお願いします。

また、夏山は午後になると急激に天候が悪化し、雷が発生することがあります。稜線の行動は、落雷の危険が伴うため、**早出早着**を意識して行動しましょう。